

○議長（黒沢義久君） 次，１７番川又照雄君の発言を許可します。

〔１７番 川又照雄君登壇〕

○１７番（川又照雄君） １７番川又照雄でございます。ただいま議長より発言のお許しをいただきましたので，通告どおり一般質問をさせていただきます。

合併後，新生常陸太田市も丸４年が経過し，５年目に入りました。この現実を踏まえ，努めて市議会議員は常に市民の代表者であること，その認識の上で，地域発展のため，市民の福祉向上のため，市長と並んで同質同量の政策論を展開して，市民の負託に応えなければなりません。当然，市民の要望，市民の声を反映して要請すること，また，現在の行政事務執行を問うことも大切であることは言うまでもありません。この一般質問の機会を議員の大きな職責と考え，私の一般質問に入ります。

最初に，地産地消についてお尋ねをいたします。

地産地消の声が聞かれてこれまで長い歳月を要しましたが，いよいよ本市においても環境や条件も整い，今年度から２２年度までの３年間の常陸太田市地産地消推進計画が策定され，本市の基幹産業である農林水産業の元気づくりがスタートいたしました。当市の産業の将来の夢を託す計画でもあり，スタート年度を意識してこの計画にかかわるすべての関係者が理解し，「知る」「考える」「実践する」サイクルを共有することを願って質問いたします。

まず，基本計画１の生産者と消費者の顔の見える関係づくりの中から，１点目として，直売所の見直し再生について。２点目の朝市の今後の展開について。３点目として，学校給食の地場産物の利用について。今年度のこれまでの現況認識と計画推進状況をお尋ねいたします。

次に，基本計画２の消費者に喜ばれる産地づくりの中から，１点目として，安全・安心な地場産物の生産振興の協理解解者の発掘，育成について。２点目として，地場産物のブランド化への方向性についてお尋ねをいたします。この地場産物のブランド化への方向性——これは，先ほど同僚議員の質問の中で，ソバと米については理解をしましたので，果樹，その他についてお尋ねをしたいと思います。次に，基本計画３の食文化の伝承と創造。それから，４つ目の地産地消の輪を広げる情報発信。それから，５つ目の都市と農村との交流促進については，課題とその主たるこれまでの成果についてお尋ねいたします。

さらに，今，地産地消は，生産者と消費者，流通・加工関係者などがお互いに顔の見える中で信頼関係を築きつつ，地域地域のおいしさの追求と安全・安心の取り組みを創造し進めることが重要だと言われており，本市においては，まず里美，水府，金砂郷，そして太田の４地区における考え方を基本に置き，充実させた上での融合プロセスの地産地消の展開が大切だと考えます。

１１月に開催されました予想を上回る人出とにぎわいを見せ，関係者，参加者に大きな感動を与えた国民文化祭の民謡民舞の祭典や常陸秋そばフェスティバル，竜神峡紅葉まつり，さとみ秋の味覚祭，かかし祭り，鯨ヶ丘の秋まつり２００８などの各イベントにおいても，担当職員のすばらしい対応は目につきましたが，生産者，地元商店や出店した参加者間にも格差があり，産業として考えるとき，全体的にひ弱さを感じました。もっと大きな商いの余地があると思われます。やる気のある生産，製造，販売の人づくりの育成を急がねばなりません。また，やる気を出させ

るための生産農家の収入安定に貢献する取り組みが必要だと思います。

この点、今後の産業祭関係のイベントには、地元製造販売者育成支援、地元生産農家支援の冠を付け、支援金の生まれる施策を講じ、市独自の支給を考え、やる気を出させる必要があると思いますが、問題点も含めてご所見、ご見解をお尋ねいたします。

次に、幼稚園、小中学校の統廃合についてお尋ねいたします。

先ほども同僚議員よりこの質問がありましたけれども、この問題も当然多くの議論が交わされ、今日に至っておるわけでありますけれども、少子化に伴う児童数の減少、あるいは学校としての適正規模、統廃合による財政面での利点、多様な集団での人間関係も含めた子どもの成長を図るなどの教育の充実、そういった点でも統廃合の流れは避けられないとも感じます。ただ、幼稚園や小中学校は、単に子どもの教育を行うだけでなく、地域のシンボルであり、災害時の避難所、地域の文化センターなど、地域にとって多様な機能と歴史を有しております。大切なエコミュージアム推進の拠点でもあります。私は、その地域の実情を検証し、担当職員を増員してもそれぞれの地域に出向き、時間をかけ考え、もっと慎重に展開すべきと考えます。

ここで1点目として、今後5年間の幼稚園、小学校、中学校の統廃合計画についてお尋ねいたします。

2点目として、この計画に対しては地域の実情を十分に配慮し、地元説明会を開催して検討していると思いますが、その結果を踏まえて、今後計画の見直し、あるいは延期もあり得るのかお尋ねをいたします。

3点目として用意しました廃園・廃校の校舎に関する質問は、同僚議員の質問の答弁で理解しましたので質問を割愛いたします。

次に、アダプト・ロード・プログラムについてお尋ねいたします。

これは、市民団体や企業などに道路や公共施設などを長期間ごみ拾いなどの美化活動や花壇の管理をしてもらう里親制度であります。実践例の1つとして、奈良市の「アダプト・プログラム推進事業」があります。参加団体はすべて申請し、合意書を交わし、活動区域内のごみの収集及び除草、花の植栽、花壇の手入れの美化活動や公共施設の損傷、不法投棄等の情報提供などの活動をし、行政側は1年間の美化活動支援費や清掃用具の支給や保険加入、あるいはごみの回収などを行っている例があります。

当市においても、少子高齢化、広域過疎化、環境保全、維持管理等を考えても、また、自治意識の高揚の点でも速やかにこの事業を計画し展開すべきと考えますが、ご所見、ご見解をお尋ねいたします。

次に、医療問題についてお尋ねいたします。

本格的な高齢化社会の中で、健康であり続けることは大変素晴らしいことです。いつまでも健康で笑顔で長寿を楽しみながら人生を全うする、そんな元気な高齢者との出会いの中、そのすばらしさを強く感じます。その反面、予防や早期発見、早期治療の遅れから大きな悲しみもあることも現実です。そのためにも予防医療の大切さ、早期発見、早期治療の必要性を強く感じております。

ここで１点目として、予防医療について、２点目として、早期発見、早期治療についての今年度の計画推進状況とその成果についてお尋ねをいたします。

最後に、市民バスの運行についてお尋ねいたします。

今年の１月４日より、新たに運行コース、運行回数を増やして有料で運行しております市民バスについて、約１年、現在までの経過の中で、１点目として、コース別利用状況について、２点目として、その利用目的の中から病院への利用の割合についてをお尋ねいたします。３点目としては、病院への利便性や市民バス利用促進を図る意味で、病院近くの停留所設置を含めた運行回数の増便やコースの見直しは今後可能かどうかについてお尋ねをいたします。

以上で１回目の質問を終わります。

○議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。産業部長。

〔産業部長 赤須一夫君登壇〕

○産業部長（赤須一夫君） ご質問の地産地消についてお答えいたします。

まず、直売所の見直し体制、朝市の今後の展開、学校給食の地場産物利用についてでございますが、市内５つのＪＡ直売所につきましては、ＰＯＳシステムの導入により、ほぼ横ばい状況にある年間販売総額の増とともに生産者育成を見込んでいるものでありますが、全体的な販売方法等につきましても、事業主体でありますＪＡと協議、検討することが必要であるものと考えております。

次に、１２月において４回目の実施となります朝市の今後の展開でございますが、地産地消推進協議会において、継続的な実施を確認するとともに、出店料の徴収等の検討を行いながら出店者の自主性を持った朝市へと発展させていきたいと考えているところでございます。

次に、学校給食の地場産物利用につきましては、給食センターと連携をしまして、学校給食用レシピ開発研究会を立ち上げ、地場産物利用拡大に向けたレシピ開発の取り組みを行っているところであり、来年早々にも公開学校給食を実施し、地場産物の利用の倍増を図ってまいります。

２点目の安全・安心な地場産物生産の協力理解者の発掘と地場産物ブランド化への方向性についてお答えをいたします。

まず、安全・安心な地場産物生産の協力理解者の発掘につきましては、この発掘並びに拡大が地産地消を進める上で大きな目的であるとともに課題でもあり、今後においても地産地消の各種事業を積極的に推進、発掘に努めてまいります。

次に、地場産物ブランド化への方向性につきましては、地域力創造アドバイザーの指導により、ブドウ、ナシ、カキ、小麦等及び食品加工物などのブランド化を推進しているところであり、来年度以降につきましては、ブランド化に耐え得る生産基盤の体制づくりのため、生産者を中心とした組織化等を検討してまいります。

３点目の食文化の伝承と創造、情報発信、都市との交流促進の計画推進の課題と成果につきましては、地域力創造アドバイザーの指導により、ソバの雑誌掲載、小冊子作成や都市部へのイベント参加等により計画推進を図っているところであり、常陸太田産の農産物の魅力が発信され、都市部との相互交流が図られつつあります。

また、10月には社団法人常陸太田青年会議所主催で「食の安全安心～あなたは食を選んでいくか～」や「地産地消の取り組みについて～私たちができること～」をテーマとした市民討議会が開催されました。このように、市民の地産地消への関心も高まりつつあります。今後につきましては、より効果のある情報の発信につなげるとともに、都市との経済交流に結び付く方策の検討を行う必要があるものと考えております。

4点目の地産地消推進支援金につきましてお答えいたします。

生産者の育成に関しましては、各直売所での販売体制の改善による出荷量増大や朝市の開催における直接販売拡大を図っているところであります。また、現在の4地区における各種イベントにおいては、農産物生産及び加工者が直接出店する場を設けたイベントに努めており、特に鯨ヶ丘で開催いたしました秋まつりにおきましては、地産地消推進協議会が中心となり、地産地消のエリアを設定し、生産者の出店する機会を増やし、直接収入につながるような取り組みを実施してまいったところでございます。

さらに、常陸太田産の常陸秋そばを全国にPRするためのイベントとしまして、常陸秋そばフェスティバルを実施してきておりますが、このイベントへの市内の出店者は、地元産常陸秋そばを使用するとともに、全国展開をする市外からの出店者におきましても、年間約6,300キログラムの常陸太田産常陸秋そばをJAから購入しているものでございます。

このように、各種イベントにつきましては、直接的な支援は実施していないものの、農産物の販売拡大に結び付いているものであります。しかしながら、より生産意欲の向上を図る施策の展開が今後とも重要な課題でありますので、研究を重ねてまいりたいと考えております。

以上申し上げましたように、市といたしましては、基幹産業であります農業に従事する方々の生産意欲の向上を図り、所得向上に結び付く地産地消の各種事業を、今後も地産地消推進協議会を中心に積極的に推進してまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（黒沢義久君） 教育長。

〔教育長 小林啓徳君登壇〕

○教育長（小林啓徳君） 幼稚園、小中学校の統廃合についての3点のご質問について、関連がありますのであわせてお答えをいたします。

本市の統廃合推進計画をご説明いたしますと、学校の適正規模につきましては、小学校については、児童が学校生活で仲間づくりができるよう1学級20から30人程度を適正規模とし、複式学級は避ける方向で計画的に統合を考え、複式学級が2学級になる前に解消措置を講じる考えでございます。中学校につきましては、生徒が多様な人間関係を通して、自主性や社会性を培うことができるよう、単学級の増加や全校生徒数が2けたになるなど、小規模化が進むなど学校運営や部活動等に影響が出る前に統合を進めてまいります。

幼稚園につきましては、園児数が少なく混合保育を実施している幼稚園につきましては、年齢別保育ができるよう統廃合を進める考えであります。

このため、西小沢幼稚園につきましては、のぞみ幼稚園との統合を基本に協議を進めており、

平成２２年度末で閉園する予定でございます。さらに、現在混合保育を実施している小規模な幼稚園につきましても、今後統廃合を進める考えでございます。

統合を進めるに当たりましては、保護者や地域の方々との協議を行い、理解をいただくとともに、通学路の安全確保や通学、通園のための交通手段についても配慮していく考えであります。これらの計画につきましては、今後年度内に公表し、住民の方に周知する予定であり、状況に応じて見直しを行うなど、柔軟に対応していく考えでございます。

○議長（黒沢義久君） 建設部長。

〔建設部長 富田広美君登壇〕

○建設部長（富田広美君） アダプト・ロード・プログラムについてお答え申し上げます。

常陸太田市の市民団体による道路・公園の維持管理活動の現状について申し上げますと、まず道路でございますが、国道、県道につきましては、県の常陸太田土木事務所と里親制度の協定を締結した１５の団体が、国道、県道７路線で美化活動などを行っております。また、市道につきましては、現在里親制度はありませんが、町会の作業を行うときに市に提出していただく道路補修作業実施計画の平成１９年度の実績でございますが、市内８０の町会において除草などの作業が行われております。

次に、公園でございますが、太田地区でございます１５の公園で町会による管理や除草作業が行われております。また、東三町から西三町にかけての鯨ヶ丘ふれあい広場では、今年４月にボランティア団体が設立され、無償ボランティア協定を市と締結し、管理が行われているところでございます。

市といたしましては、市の第５次総合計画において、地域住民との協働による公園の維持管理を進めておりますので、今後も町会、ボランティア団体などの活動の拡大を図るとともに、作業内容の明確化、安全の確保のためにも、市道の里親制度導入について検討してまいりたいと考えております。

○議長（黒沢義久君） 保健福祉部長。

〔保健福祉部長 綿引優君登壇〕

○保健福祉部長（綿引優君） 予防医療及び疾病の早期発見、早期治療について、今年度の計画推進状況とその成果についてのご質問にお答えいたします。

現在、死亡原因の上位を占める各種のがんの予防及び早期発見のため、保険推進員の活動を初め、広報紙等の活用により周知を行い、各種がん検診を実施いたしております。

個々の検診の実施状況でございますが、胃がん検診、大腸がん検診、肺がん検診、前立腺がん検診、胸部ＣＴ検診、喀痰検診、乳がん検診、子宮がん検診等を身近な地域で受診できるよう各地域で実施いたしております。

その成果でございますが、異常のなかった方には郵送にて検診結果を送付しておりますが、検診結果が精密検査を要するとの結果となった方については、保健師が家庭訪問を行い、結果を説明しながら受診の勧奨を行っております。また、不在等の場合も本人にあてた連絡票を入れながら、後日電話などで受診の勧奨を行っております。受診勧奨後は受診の状況、受診結果等を改め

て確認をし、必要な指導をさせていただいており、がんの早期発見、早期治療に成果が上がっているものと考えますが、今後さらに受診率が向上するように、検診の実施方法等を工夫していきたいと思っております。

○議長（黒沢義久君） 政策企画部長。

〔政策企画部長 江幡治君登壇〕

○政策企画部長（江幡治君） 市民バスの運行についてのご質問にお答えをいたします。

初めに、コース別の利用状況でございますが、本年１月から１０月までの１日の平均利用者数は、Ａコースの西河内方面が６３人、Ｂコースの大門方面が２７人、Ｃコースの幸久、松栄、佐竹方面が４５人、Ｄコースの真弓、高貫方面が４６人、Ｅコースの大森、岡田方面が６９人、Ｆコースの堅磐、新沼、西バイパス方面が３８人、Ｇコースの金砂、花房方面が４５人、Ｈ－１コース水府高倉方面が２６人、Ｈ－２コース水府東染方面が３４人、Ｉコースの里美方面が４４人、Ｊコースの赤土、棚谷方面が３６人、全コースの平均で４４人となっております。

次に、病院利用の割合でございますが、本年１０月に実施をいたしました市民バス利用者のアンケート調査におきましては、病院利用とされた方が２５．４％ということで、一番大きな割合になっております。

運行の見直しにつきましては、利用者へのアンケート、町会や市民の皆さんからのご意見やご要望を踏まえまして、市民バスの利便性の向上を図ることとしております。このため、コース変更等につきましては、運行地区の町会のご意見やご要望、あるいは運行に当たっての道路の幅員や安全確保等につきまして状況を確認して、できる範囲内で随時変更を行うこととしております。

里美方面のＩコースにつきましては、里美地区の町会長さんから病院利用者の利便性を図るためにということでご要望もございまして、本年９月に一部コースの変更をしております。

なお、運行回数につきましては、随時見直しすることは難しいことであることから、利用状況を見ながら全体の見直しの中で検討をすることとしております。

以上でございます。

○議長（黒沢義久君） １７番川又照雄君。

〔１７番 川又照雄君登壇〕

○１７番（川又照雄君） ご答弁ありがとうございました。地産地消の推進計画、大変慎重さもわかりますけれども、直売所１つとっても現状はだめだという発想でいかないと、私も商売をやっている関係上、言いわけとかそういう部分ではなくて、きちんとこんなもんじゃないということをしつかり言わないと、ＪＡの自助努力という部分も感じますけれども、３年間あっという間に終わっちゃいますから、ぜひ大胆な発想で、私も担当なのでその責任も感じますけれども、市独自の工夫というものをどんどん前面に出していただきたい。

それから里美、水府、金砂郷、太田の４地区にもそれぞれそういったチームを作って、地域の特性、そういうものを生かして、すべてに展開を考えるということが必要だと思います。関係団体には素晴らしい方がたくさんおりますし、職員にもかなり優秀な方もおるということで、ぜひ、特に市の上層部がハッパをかけて進めていただきたいなと思っております。

意識改革とありますけれども、今、朝市なんかはまだ１回しか私は参加していませんけれどもかなり生き生きとして、ただ、内容的にはもう少し検討する余地もあるなという思いもしますし、私も産業水道委員会ということもありますのでしっかり考えていきたいと思っています。

その点で再度の質問なんですけれども、１点目の学校給食での地場産物利用目標値、どうも気に食わないという、今年度の２９％はしょうがないにしても来年度が３０％で、最後の年度は３３％になると、ぜひこの数字が目標値ですからもう少し、最低でも来年５０％ぐらいのものを考えて進めていただきたいということが１点目。

それからもう一つは、各年度に地場産物を利用したアイデア料理コンテストの開催を上げておりますけれども、これはどうですかね、私はぜひ有料にして、もう少し回数を増やしてはどうかという思いがします。

それから、この間の国民文化祭でいただきましたお弁当、これも１つのそういう試食会、お弁当もそうでありますけれども、いろんな部分の試食会とか試飲会、それもぜひ有料でやれば回数を増やすことが可能なんじゃないかなという思いがいたします。

産業部長、申しわけありませんけれども、この２点、学校給食での地場産物利用目標値、少なくとも来年度は５０％ぐらいの答えが欲しいなと思いますけれども。その点と、もう一つはアイデア料理コンテストの有料化。これは参加費をいただいてやってもいいのかなと、ただ回数を増やすということで。それから、有料の試食会、試飲会についてお尋ねをしたいと思います。

それから、幼稚園、小中学校の統廃合については、今展開しておりますけれども、エコミュージアムの推進の拠点、ぜひそういったものも考慮してほしいと希望いたします。

それからアダプト・ロード・プログラム、これは私自身も勉強不足だった点もありますけれども、ぜひもう少しＰＲして全市に拡大をしてほしいと要望いたしておきます。

医療問題、市民バスの運行については理解をいたしました。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。産業部長。

〔産業部長 赤須一夫君登壇〕

○産業部長（赤須一夫君） 地産地消におきます再度の質問にお答え申し上げます。

１つ目は学校給食の地場産食材の利用の目標値でございますけれども、これにつきましては給食センターと協議をいたしまして、調理の方法と献立等、こういったものをもとにかなりの増大を図れるような方向性を持って進めてまいりたいというふうに考えております。

それから、２点目のコンテストなどの有料化でございますけれども、現在、試飲会、それから試食会といったものを展開しているわけでありまして、回を重ねるたびに参加者の、それから材料提供者の方々の意見等を踏まえまして有料化に持っていく、自立性のあるものに展開を進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。